

まち×学生プロジェクト ～まちと学生がつながく・つながるまちづくり～

横浜市では、地域ケアプラザ（地域包括支援センター）を141か所設置しております。（令和3年現在）各施設には「生活支援コーディネーター」とは別に、横浜市独自に子どもからお年寄りを対象に地域支援を行う「地域活動交流コーディネーター」を配置し地区特性に応じ、きめ細かい取組を行っています。



まち×学生プロジェクト ～まちと学生がつながく・つながるまちづくり～

～神奈川区の概要～

【総人口】240,844人 【高齢化率】21.9%
【区内地域ケアプラザ数】7か所 特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター1か所 計8か所（全て指定管理者による運営）
【自治体町内会数】178団体（六角橋地域ケアプラザ圏域【人口】38,786人【高齢化率】22.64%）



■地域（まち）と学生がつながる【概要】

2015年10月、六角橋地域ケアプラザが主催する包括レベルの地域ケア会議で自治会役員と若者（学生）との意見交換の機会を設けたことから、まちと学生が協働して「まちづくり」を考え・創るプロジェクト「まち×学生プロジェクト」がスタートしました。

【目的・ビジョン】

- 学生と地元住民が「あいさつ」しあえる関係づくり
- 学生達が考えたアイデアを応援・協力し形にできるまちづくり
- 卒業後も「戻ってきたい！住み続けたい！」と思うまちづくり



■新型コロナウイルスの影響下、 「困っている学生を助きたい！」まち“SHOKU”

「日頃から関わる学生のsos」を聞き、自治会を中心に商店街・市社協・大学・ケアプラザ等が協働し、計3回465名の学生に「食」支援が実現しました。



これ食べて元気だせよ！

困っているときは
“おたがいさま”
まちの一員として活動して
くれる学生を助きたい



金券も使ってね！

地域の学生の力になりたい。
学生にできたての食事を
届けるべくで商店街で
使用可能な金券を配布



【学生の声】

人と関わる機会が減っていたので、地域の方や学生と関わる事ができて楽しかったです！企画を通して改めて学生が地域の方に支えられていると感じました。



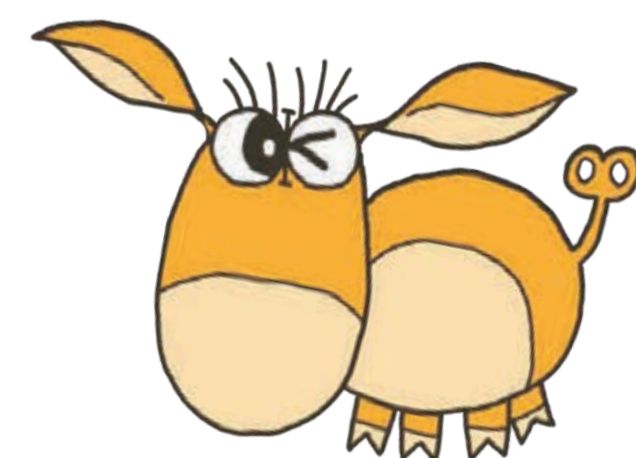
【学生の声】

金券を握りしめ、商店街で有名な「大盛り炒飯」を何度も食べに行きました(笑)おかげで生き延びることができ、地域の皆様には感謝してもきれません！

■平時（5年間の地道なつながり）の関係が【緊急時】に機能する！

企画（イベント）が
注目されがちですが

まち×学生プロジェクトの “おもいをつながく” 心臓（キモ）は「定例会」



まち

- ・六角橋自治連合会
- ・六角橋商店街連合会
- ・地域交流活動委員会

×（かける）

- ・横浜市六角橋地域ケアプラザ
- ・神奈川区社会福祉協議会

学生

- ・神奈川大学学生ボランティア活動支援室
- ・ボランティア部GLOBAL★YEN★LEAP
- ・神奈川大学地域連携推進室
- ・神奈川大学教育支援センター

2015年10月から始まった定例会の開催回数は63回を数えます。（2021年6月現在）月1回開催される定例会には、地域と学生の交差する拠点（プラットフォーム）として機能し直接対話の中からアイデアが生まれ、イベント等で花開いています。

平時のつながり

第3回「六神祭」

一番最初のまち×学生プロジェクトの企画。「地域の人に神大生を身近に感じてほしい」と企画。地域の方と学生総勢150人程度の相互の活動発表会。



第3回「神大マルシェ」

「学生生活を過ごす“神奈川区”を身近に感じてほしい」との想いから地産地消をテーマに神奈川区の歴史・特産品・企業が集まる朝市を企画。



第4回「オレンジプロジェクト」

「大学近隣の役に立てるボランティアを創りたい」との意見から学生と商店街が連携しての認知症啓発活動が始まる。【QRコードから4年間の活動報告書を閲覧可能です】



第3回～地域をつながく～「キャンドルナイト」

毎年最後は「キャンドルナイトでまた会おうね！」がまちの合言葉。地域の20団体以上3000本の手作りキャンドルホルダーが大学に勢ぞろい。

